

2015 年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書		提出日	2016 年 5 月 10 日
氏名：木原 由里子		実施国：ネパール	協力活動
活動名称	大地震後のネパールにおける災害リハビリテーション支援活動		
実施期間	2016 年 3 月 8 日 ~ 2016 年 3 月 22 日		
(1) 申請した動機			
<p>2015 年 4 月 25 日ネパールでは大きな地震が起こり、ネパールとそこに住む人々は甚大な被害を受け、死者は 8,000 人を超えました。今回の地震によって家を失い、避難生活を余儀なくされた方や、体やこころに障害を負ってしまった人も多くいるとの報告があり、災害リハビリテーションの必要性が感じられています。この災害リハビリテーションとは比較的新しい概念であり、今までは災害に対する支援は緊急時のものであると認識されてきました。しかし東日本大震災後には特に、被災者の「生活」に対して運動や生活環境の面から長期的に支援をしていくことのできる災害リハビリテーション支援活動が進められております。</p> <p>私は、任期中、首都のカトマンズを中心に活動しておりましたが、2 度目の地震の震源地となったドラカ村でも継続的に活動していました。ネパールでの活動を予定している時期は発災から約 1 年後となりますが、復興には課題が残っている可能性があると考えられます。</p> <p>まずは、現地の約一年後の状況と支援のニーズを調査し、今後の支援活動を明確に的確に組み立てていければと思います、申請いたしました。</p>			
(2) 活動内容概要			
<p>(1) ネパールカトマンズ近郊とドラカ郡において、保健医療に関わる人が地震後に行った活動、リハビリテーションや障がい者支援に関することについて、また、現在の状況やニーズについて、を聴取する。</p> <p>(2) 我々日本人リハビリテーション専門職ができることと現地のニーズを照らし合わせるための意見交換を実施する。</p> <p>(3) 現地の保健医療に関わる人に対するワークショップを開催する。</p> <p>(4) 飛んでけ！車いすの会から預かった車椅子を対象者へお届けする。</p>			
(3) 活動の成果・苦労した点・反省点等			
<p><b>【成果】</b></p> <p>日本からでは、なかなか状況やニーズを把握することは難しかったが、各地を訪問して会話し、聴取する中で、先方のニーズを把握し、自分たちが取り組むべきことと、取り組めそうなこと、また、もう少し時間を掛けて調査すべきことを明らかにすることが出来た。今後のプランとしては下記に挙げているが、それも次の計画では的を絞って確実に出来るよう、準備を進めたい。</p> <p>また、現職 JOCV や現地の日本人の協力も得ることができ、ワークショップを実施することが出来た。主催者としての準備不足など、次回への勉強になったことに加え、参加して下さった現地の方々からは、好評価をいただいております、一定の成果は得られたと考える。</p> <p><b>【苦労した点・反省点】</b></p> <p>今回の活動場所を選んだところは、JOCV としての任期中にも滞在した場所であり、比較的容易に関係する人と連絡を取ることが出来たが、計画段階においては、ニーズを明確に確認することは難しく、十分な調整が図れなかった。結局は、渡航して顔を合わせてから話が進むことばかりであったため、現地調整が多くなった。出来れば、もう少し長期で滞在し、準備も含めて実施したいところだが、現在の自身の立場からではそれも難しい。</p> <p>今回の滞在によってキーパーソン、カウンターパートになりそうな方も絞れたため、今後は計画と実行が無理なく実施できるよう、準備を進めていきたい。</p>			

#### (4) 今後のプラン

- ・首都近郊と村落部では環境の違いも相まって、被災後の状況が大きく異なる様子であった。そのため、異なるアプローチをしていく必要があると考えられる。
- ・首都近郊では、リハビリテーションの専門家や関連職種の方も多く勤務している。そのため、その方々に新しい知識や取り組み方をお伝えできるようなワークショップなどが有効であると考えられる。一例ではあるが、脊髄損傷の方などのため、ネパール国内での車両改良にも取り組める可能性がある。障がい者に対する理解や、自立促進の役に立つのではないかと考えられる。
- ・村落部では、まだまだリハビリテーションを受けることで、よりQOL（生活の質）が高い生活が出来ることや、疾患に対する知識そのものが不十分で、自宅で閉じこもっている方もいらっしゃる可能性があると考えられた。そのため、積極的にアウトリーチ活動も実施し、啓蒙活動や診療を実施し、簡易的な、地元の方でも代行できるような内容のリハビリテーションの視点からの工夫をお伝えできれば良いと考える。